

「国際交流推進委員会」

1. 構成員

1) 委員

真田弘美（委員長、東京大学）

グレッグ美鈴（神戸市看護大）

山本あい子（兵庫県立大学）

山本則子（東京大学）

2) 協力者

吉田美香子（東京大学）

2. 趣旨

本委員会の趣旨は、関連する国際的組織と連携をとりながら、国内の看護高等教育の推進及び、日本国内の看護系大学のグローバル化を支援することである。

3. 活動経過

1) The East Asia Forum of Nursing Scholar (EAFONS) に関する活動

(1) Executive Committee Meeting への参加

2014年2月20-21日にフィリピンのマニラにて行われた第17回EAFONS初日にExecutive Committee Meetingが開催され、片田範子理事長と真田弘美国際交流推進委員会委員長が出席した。主な議題として、参加国・大学間での教員・大学院生の交換留学や共同研究を推進するために、各国の大学・教育プログラムに関するデータベースを作成しEAFONSのホームページに掲載することや、学部間協定の重要性が議論された。また、第19回（2016年）のEAFONSを日本で行うこととなった。

(2) スピーカーの選出

第17回EAFONS事務局からの依頼を受けて、パネルディスカッションのスピーカーを選出した。第17回EAFONS2日目に、石垣和子先生（石川県立看護大学学長）が、パネルディスカッション「Positioning EAFONS as key player in forging partnerships for graduate nursing education and research」で、日本の高等教育における国際交流の取り組みについて発表を行った。

(3) 第17回EAFONSの国内参加者への支援

第17回EAFONSの広報として、日本看護系大学協議会（JANPU）のホームページにリンクを貼るとともに、会員校のメーリングリストで開催案内及び、演題登録の呼びかけを行った。発表演題のうち日本人研究者の発表数は、Oral session 76件中13件（17.1%）、Poster session 304件中155件（50.9%）であり、ポスター発表ではマジョリティであるものの、口演発表が少ない課題が明らかとなった。日本人研究者がグローバルな視点で口演発表およびディスカッションができるよう支援していく必要がある。

2) International Network for Doctoral Education in Nursing (INDEN)

(1) 2013 INDEN Biennial Conference への参加

2013 INDEN Biennial Conference (2013年7月21-22日、チェコ共和国、プラハ)において、グレッグ美鈴委員がJANPUを代表し、シンポジウム(Measuring Quality in Doctoral Education in Nursing)にて発表を行った。このシンポジウムとワークショップの目的は、INDENのQuality Criteria, Standards, and Indicators (QCSI) committeeが作成した博士課程の教育の評価基準を用いて作成された質問紙の活用を促すことであった。すでに本質問紙を用いて7か国が同時に調査をしており、日本もそのうちの1か国として、2008年にJANPUの看護学教育評価機関検討委員会委員長であった村嶋幸代先生(現大分看護科学大学理事長)が質問紙調査を実施している。そのため、今回のシンポジウムではその調査結果を発表した。

また、大学院博士課程や高度実践看護師に関する国際的な情報収集及び、今後の連携可能性について検討を行った。欧米とアジアや中東の大学間では、提携大学院から教授を招いての授業や、Webinar softwareを用いた授業の共有が行われているとの報告があった。ウェブを用いた授業は、時差の問題があるものの、費用は安価であり、接続スピードは映像を使わないことで問題のないレベルになっていることから、日本においても、今後の国際的な連携の推進方法の1つとして検討すべきである。

3) INDENの機関誌への論文投稿

上記の博士課程の教育の評価基準を用いた日本の看護高等教育の調査が、グレッグ美鈴委員らによってまとめられ、「Quality in Doctoral Nursing Education in Japan」としてAdvances in Nursing Doctoral Education and Research Journalへ掲載された。

Gregg, M.F., Sanada, H., Yamamoto, A., & Yamamoto-Mitani, N. Quality in Doctoral education in Japan. Advances in Nursing Doctoral Education & Research. 2013; 1(2): 4-8.

<http://nursing.jhu.edu/excellence/inden/documents/Oct%20Journal%2010%2013%2013.pdf>

4) 日本国内の看護系大学のグローバル化に関する支援方法の検討

日本の看護系高等教育及び研究の質の現状について、グローバルな観点からの位置づけを明確にし、それらの更なる向上に関する方策を検討することを目的に、各国及び日本の発表英語論文数の動向を調査した。

(1) 方法

各国及び日本における過去英語論文について、以下の文献検索方法を用いて調査した。

なお、筆頭著者が看護系の施設に所属している論文のみを対象とした。

- データベース : Medline
- 調査対象期間 : 2008.1.1-2012.12.31
- キーワード : nurs*[ad] NOT review limit: English

日本人英語論文の検索の際には、Japan[ad]をキーワードに追加した。

[ad]=First author の所属

(2) 結果

① 国際的な看護系英語論文の動向

過去5年間の論文数の各国のトレンドについて記述分析を行った。その結果、看護系英語論文の年間発表数は、過去5年間で2057本（2008年）から2605本（2012年）に増加傾向にあるが、医学系論文に占める割合は約5%に過ぎず、その半数は米国からの発表であった（図1）。

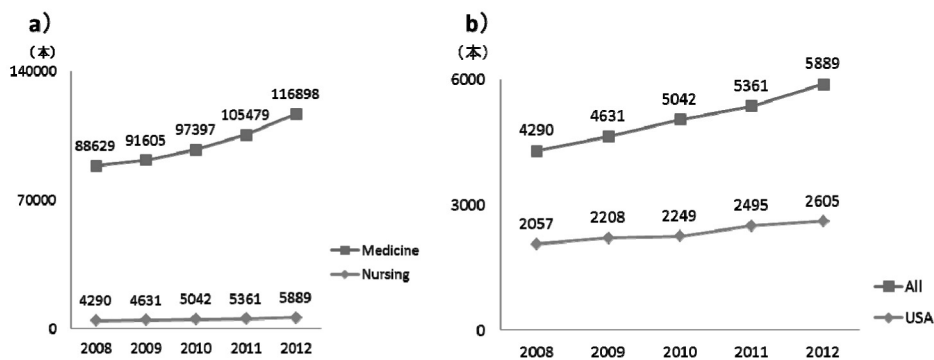


図1.過去5年間の看護系論文の動向
a)医学系論文と看護系論文の比較、b)看護系論文の動向

米国を除く各国の英語論文数のトレンドについて調べた。対象は、1) 英語を母国語とする国、2) 東・東南アジア諸国、3) Japan Journal of Nursing Science への投稿論文が増加している国（トルコ・イラン）とした。国別の看護論文数では、英語圏のオーストラリア、カナダ、英国が多く、東・東南アジア圏では台湾が多い結果であった（図2）。日本からの英語論文数は徐々に増加しているものの、中国や台湾、イラン、トルコの過去5年間に於ける論文数の増加傾向は、日本のそれを凌駕していることが明らかとなった。

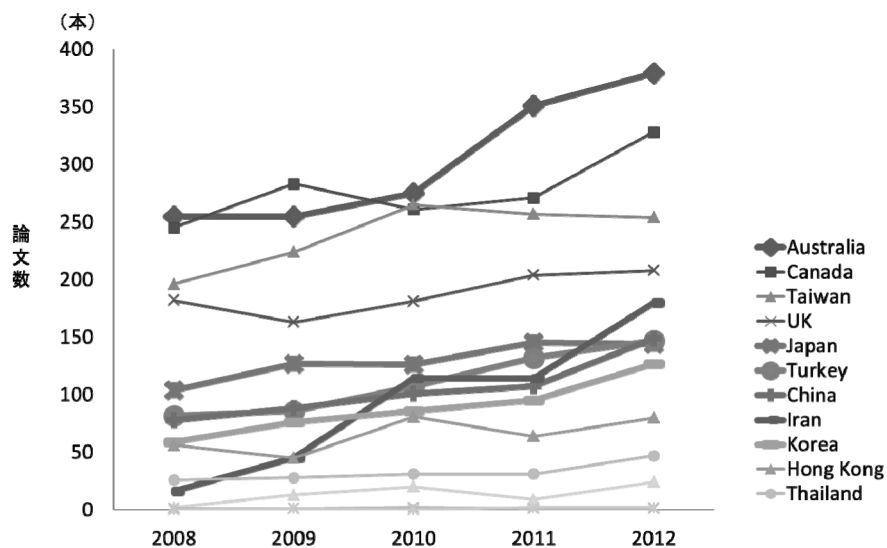


図2.国別看護系英語論文数(米国除く)

選択基準: 1. 英語圏、2. 東・東南アジア、
3. Japan Journal of Nursing Scienceへの投稿が目立つ国(トルコ、イラン)

②日本人研究者の英語論文

過去3年間に絞り、日本人研究者の英語論文についてその内容を調べた。過去3年間で発表された英語論文数は361本であり、そのうち、記述・相関関係的研究（横断調査・コホート調査、尺度開発）が70%を占めていた。

2010～2012年の3年間に1本以上英語論文を出版していた大学は、国立大学43校中34校（79.0%）、公立大学46校中21校（44.7%）、私立大学120校中34校（28.3%）であった。1校あたりの平均論文数は、博士課程を有する大学が3.3本/3年であるのに対して、学部のみ大学では0.2本/3年であった。大学あたりの論文数は、博士課程を有する大学では、国立大学の6.1本/3年が最も多く、公立大学1.2本/3年、私立大学2.2本/3年であった。

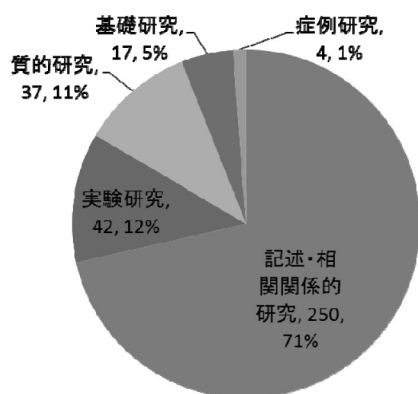


図3.発表論文の研究デザイン分類

バーンズ&グローブ「看護研究入門-実施・評価・活用-」に基づく分類

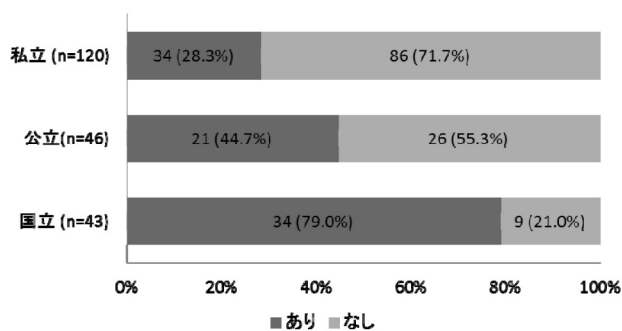


図4.過去3年間に1本以上英語論文を発表している大学の割合

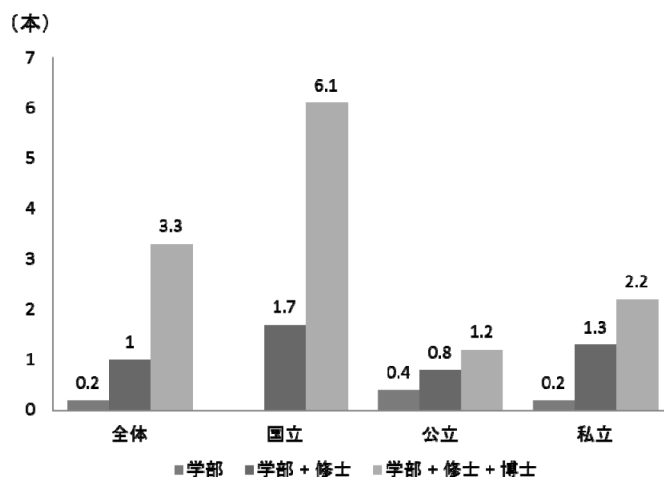


図5.大学別の過去3年間の英語論文数

(3) 考察・まとめ

日本の看護教育の大学化に伴い、少しずつではあるが過去5年間で日本からの英語論文数は増加していた。しかし、日本の看護研究に関するいくつかの問題が明らかとなった。1点目は、韓国や中国、トルコやイランといった他のアジアや中東圏からの増加トレンドに比べて日本の論文増加幅が小さいことである。日本からの2012年度の論文数は中国、韓国とほぼ同程度の発表数ではあるが、過去5年間の発表数のトレンドを鑑みると、近年中にはこれらの国に逆転される可能性が高いといえる。今後の日本からの英語論文の発表を促進するためには、トルコやイランといった論文数増加が目覚ましい国の取り組みを調べ、日本に適応可能な方策を検討する必要がある。

また、日本の看護研究の課題として、記述・相関関係的研究等の研究分野の比重が大きいこと、有する教育課程によって各大学からの発表論文数に違いがあること、特に学部のみで大学からの発表数が少ないことが挙げられる。これには、臨床指導者の不足等の理由により、日本の看護系大学教員が学部生の実習指導に多くの時間を割く必要があり、特に学部のみを有する大学では学生数が多いことから、より多くの時間や労力を必要とする介入研究や実験研究に注力できないことが影響していると考えられる。これらの研究は記述・相関関係的研究と同様に重要であり、新たな看護学を展開していくために必須と考えられることから、教員の研究環境を整え、教員が自身の裁量でもって実験研究や基礎研究を実施していくことが重要である。

さらに、博士課程を有する71校(2012年時点)から発表される英語論文が少ないという問題が浮き彫りとなった。日本の看護教育の高等化が遅く博士号を有する看護研究者が少ないうえ、看護系大学が続々と増え続ける状況において、博士課程を修了した若手研究者はすぐに教員となることが求められている。そのため、博士を取得した若手研究者は研究者として十分トレーニングされていないままに、教育業務に多くの時間を割き、それまでの研究を継続できなかったり、学位論文を英語論文として発信してできないでいると推察される。

今後、博士の学位を有する若手研究者が日本の看護研究を牽引し、後進の研究者を育成できる人材になるためには、若手大学教員の自立した研究者を目指すトレーニング期間としてのポストドクトラルフェロー制度やサバティカル制度の活用など、集中して研究に取り組める期間を確保できるような制度の策定が必要であり、JANPUから文部科学省や関連学会、職能団体に

要望していくことが求められる。特に国立大学はミッション再定義の方針も鑑みて、役割に応じて研究成果の積極的な発信が求められるため、より強力な支援体制の構築が喫緊の課題といえるであろう。

これらの結果は、第17回 EAFONS にてポスター発表を行った。今後、Japan Journal of Nursing Science へ投稿する予定である。

4. 今後の課題

今後も EAFONS や INDEN を中心国際組織と連携をとりながら、国内の看護高等教育の推進を行う。また、データベース整備・検討委員会と連携を図りながら、「看護系大学の教育等に関する実態調査」のデータベースが今後変更される際に、グローバル化に関する大学の活動の調査内容を追加し、グローバル化の実態を調査する。その結果から、国際化を推進するために必要な方策を検討する。

5. 資料

- ・ 第17回 EAFONS 発表ポスター

An analysis of Japanese research articles published in English: For the promotion of globalization of nursing knowledge

Mikako Yoshida^{1,4}, Misuzu Gregg^{2,4}, Noriko Yamamoto-Mitani^{1,4}, Aiko Yamamoto^{3,4}, Nao Tamai¹, Gojiro Nakagami¹, Makoto Oe¹, Hiromi Sanada^{1,4}

1) The University of Tokyo, 2) Kobe City College of Nursing, 3) University of Hyogo, 4) Japan Association of Nursing Programs in Universities, Japan



1. Background

Nursing educational environment in Japan

- ✓ Japanese nursing researchers have been entrusted with a strategic task of Japanese government over the last two decades, which pursues high quality academic environment in nursing research field.
- ✓ 209 universities with various affiliation types have undergraduate program, of which 144 with master program and 71 with doctoral program in 2012 (Fig. 1 and 2).

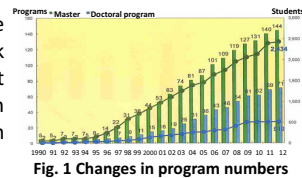


Fig. 1 Changes in program numbers

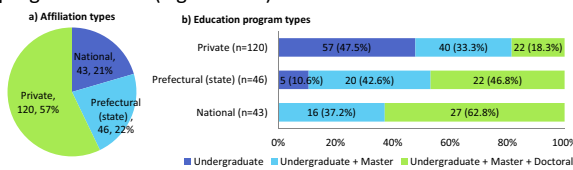


Fig. 2 Nursing programs in 209 universities, in Japan (2012)

Data are from Japan Association of Nursing Programs in Universities (JANPU)

Nursing research environment in Japan

- ✓ Nursing faculties spend most of their time for clinical training of undergraduates because of lack of sufficient numbers of clinical instructors, which causes shortage of time for allowing them to conduct their research projects and thus limited numbers of scientific articles have been published.
- ✓ Consequently, nursing research has not yet been globalized into Japan.

The aim of this study was to analyze research studies conducted in Japan and published in English, in order to devise a support system needed for promoting globalization of nursing research.

2. Methods

Study design: Literature reviews and descriptive study

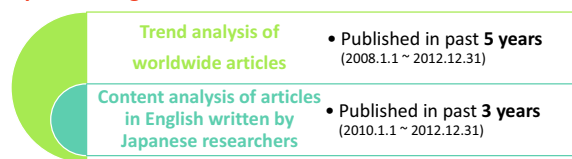
Literature search

Database: Medline

Searching terms:

- nurs*[ad] NOT review, limit: English
- Japan[ad]: Added for extracting articles by Japanese researchers [ad] means the affiliation of the first author

Analysis and targeted articles



Content analysis

Parameters: Research design and affiliation type

Evaluator: Three nursing researchers

* Any disagreement of content analysis was resolved by discussion.

3. Results

Trend analysis of nursing articles worldwide

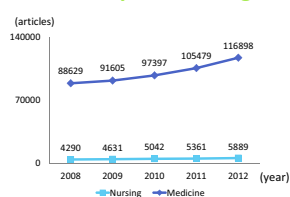


Fig. 3 Nursing articles vs. medical articles

Data regarding medical articles are from Medline

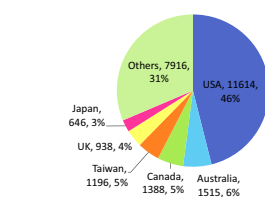


Fig. 4 Nursing articles from each country in past 5 years

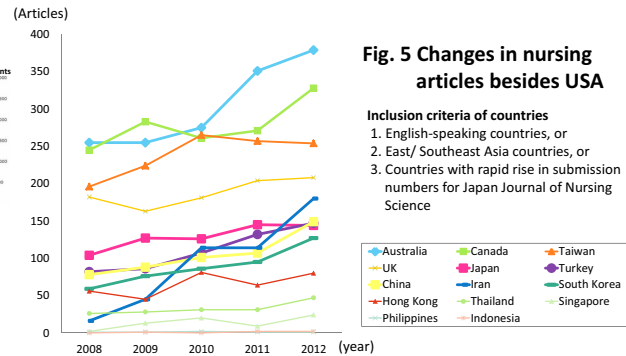


Fig. 5 Changes in nursing articles besides USA

Inclusion criteria of countries

- English-speaking countries, or
- East/ Southeast Asia countries, or
- Countries with rapid rise in submission numbers for Japan Journal of Nursing Science

Content analysis of articles in English written by Japanese researchers in 2010-2012 (N=361)

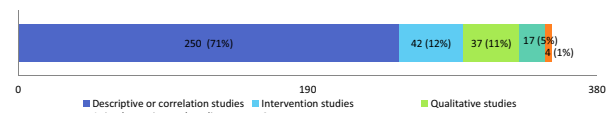


Fig. 6 Research design of articles in English written by Japanese researchers

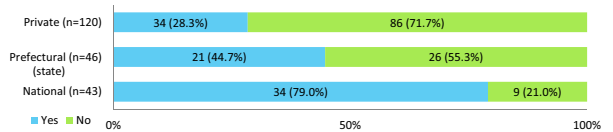


Fig. 7 Proportion of universities which published at least one article in past 3 years

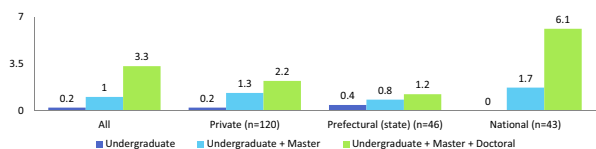


Fig. 8 Average number of published articles per year in each affiliation type

4. Discussion and Conclusions

Major issues in nursing research in Japan:

- ✓ Small numbers of articles published in English.
- ✓ More descriptive or correlational studies than any other kind of studies for developing or evaluating new nursing care methods.
- ✓ Huge gap of research publications among affiliation types; A few articles from prefectural and private universities without doctoral program.

Suggested role of Japan Association of Nursing Programs in Universities (JANPU)

- ✓ General incorporated association to enhance and progress education and academic research in nursing.
- ✓ Next challenges of JANPU
 - To improve academic environment in which faculty members can engage in research within their own discretion.
 - To organize support system to publish articles in English, in order to spread high quality nursing care in Japan to the world.
 - To collaborate with leaders from worldwide in order to improve nursing research.

Further information Mikako Yoshida E-mail address; mokka-tky@umin.ac.jp